

# 新春対談



# 知事と語る

昭和五十二年、新しい年が幕開けした。今年は内外ともに経済の年だといわれている。景気が順調に回復し、早く、安定成長路線に乗ることが県行政としても期待される。

ここでは、新年に当たり、県政の基本理念を沢田県知事に聞く。聞き手はRKK竹内明子氏。

なお、当企画は去る一月三日熊本放送県政テレビ番組「県民のひろば」で放送したものを収録したものです。会場・水前寺公園「古今伝授の間」

竹内 すがすがしいお茶をいただいて、新春のご感慨もひとしおと思いますが、知事さんはお正月をどんなふうにして過ごされるんですか。

知事 初詣は欠かしたことがありません。あとは三三五お客様がいらっしやいますので、結局、家で過ごすというのが多いですね。それから、毎年書き初めをやるんですが、今年は「人事を尽くせば自ら道開く」と書きました。これが、私

の最近の心境でもあるんです。竹内 知事さんは御神酒が入りますと、お得意の歌「人生劇場」が出るんですが、小椋桂や陽水なんていうのはいかがですか。

知事 いいですね、とても好きです。覚えられれば唄いたいと思いますよ。シンクラメンのかほりなど唄って若い人達の気持も大いに理解したいものと心掛けています。

竹内 こと同じ敷地内の出水神社に、放浪の歌人宗不の歌碑が建っていますね。「ふる里に なほ身をよせる家ありて 春辺を居れば 鶯の鳴く」と歌っているんですが、知事も二期目の県政を担当なさるに当たって「新しいふるさとづくり」を提唱されていますね。知事が考えていらっしやるふる里のイメージというものは、どういうものですか。

知事 まずは、やっぱり自然が豊かであるということですね。そこで四季折り折りの移り変わりが楽しめる、そういうイメージが最初にきますね。それから、そこに住んでいる人々が、お互い助け合い、お互いの生活の中にあるおい、生き

甲斐を見つけ出していくことができ、昔ながらの行事、風習、伝統といったものが大事にされる地域社会。そういうものを東京や大阪の大都市と比較して、イメージとして考えているわけです。竹内 この間、東京に行って感じたことなんです、ビルは林立しているし、人間は一杯いる、早く熊本に帰りたいという気持ちになりましたよ。

知事 東京砂漠という言葉がありますね。東京や大阪は、もはや人間の住む所ではなくたことなんでしょうね。よく言われることなんです、やはり人間は、自分の素足で土を踏むような生活が本来の生き方だと思います。コンクリートやアスファルトの上で暮らすというのは索莫としすぎています。

県政を身近かに考えて 竹内 知事さんは、そういったふるさとイメージを県政の理念に持っていらして、いろいろな施策を行政に生かしておられるんですね。私は、去年を振り返って見て、とってもうれしかったことがあるんです。それは、熊本に県立美術館が建ったということですね。

知事 これはみなさんから大変にほめていただきました。たかさんの人が折りにふれて足を運んでいただきましてね、造ってよかったと私も喜んでおります。今年の春頃までには、美術研修の場として

の多目的室が出来上ります。そうなるのと、美術館として、名実ともに整ったものになるだろうと思います。竹内 去年はロダン展に続いてジャガール展がありましたね。画期的でうれしかったですよ。知事 地方で、有名な美術展が身近かに見られるということは、大変にいいことだと思いますね。そのために、文化的水準が少し上ったような気がします。竹内 私は県の番組を担当している関係で、いろいろな所を取材し、多くの人々に会っていますが、去年、旧空港跡地に障害者の福祉センターができましたね。その中に点字図書館も併設されていますが、眼の不自由なお方が本当に喜んでいらっしやいましたよ。

それに、印象に残っているのが、城南にある高等農業学園の生徒さん達です。実際に生き生きとして、眼の輝きが違うんですね。知事 自分でこれからの日本の農業を、熊本の農業を背負っていかうという意欲を持った若者がいることは、非常に頼もしいことですね。今、高等農業学園のお話がありましたけれども、菊池にありま

す菊池農業高等学校というの、やはり全寮制でね、みんな一生懸命、農業の実践教育に取り組んでいますよ。若い人達が意欲的に物事に取り組んでいる姿というものには感動を覚えますね。

竹内 同じ菊池に「肥後学園」という精神薄弱児の施設がありますね。その園長さんにお会いしたんですが、子供たちのために、日本一の菜園を作ってやるうなんて、大きな夢を持っていらっしやるんです。みなさんで一生懸命なのがよく分りましたよ。知事 公立のいろいろな施設は必要ですし、作らねばなりません。福祉については、社会の連帯性に根ざしたボランティア活動というものに大きな期待を持っています。菊池の話ができていますが、肥後学園の手前には、ご承知のように「少年の町」があります。これは民間の施設ですが、よくも、あれだけのものを作り上げて下さったと思います。非常にありがたいことです。竹内 知事は、今年はどういったことに力を入れてやっていかうとお考えですか。知事 去年はいろいろなことがありましたね。経済社会状態が不安定であったというところもありますし、ロッキード問題に端を発した政治、行政に対する不信感というものが、国民の間に広がりましたね。また、地方財政は苦しく、中央の政治情勢も混沌としていて、やっと年末に新しい内閣ができたばかりでしょう。今年はいま少し安定した情勢の中で、政治や行政に対する国民や県民のみなさんの信頼感が回復されなければならぬと思います。そこを土台にして、これからどうあるべきか、ということ、この年頭に

当たってよく考えてみたいと思っています。竹内 去年の年末に、県の水俣病認定業務の遅れは違法であるとの判決がでましたね。県だけではどうしようもない問題であることはよく分りますが、もう少しどうにかならなかったのかというのが私の素直な意見なんです。いかがですか。知事 大変に残念に思っていますし、私の力が及ばなかった点については申し訳なくも思っています。けれども、あの裁判の判決も見てみますと、県の立場、今までの県の努力も十分に認めていただいていると思うんです。もっと国自身が積極的にこの問題に取り組みなさいという、そういう主旨の判決だと受けとめていきます。だから、私共も懸命にやりますけれども、やはり大所、高所から国が総力をあげて、この大きな課題に取り組んで欲しいと、今年の年頭に当たって、特に強く思いますね。

竹内 世の中が不況で、地方財政も非常に厳しいと伺いますが、今年も健康に留意されて、県民の先頭に立って、大いに頑張っていたいだきたいと思えます。知事 ありがとうございます。それから私がひとつお願いしたいことは、県政というものを自分のものとして、より身近かに考えていただきたいということですね。そしてご意見があればどしどしおっしゃっていただきたい。私もできるだけの努力はしたいと思っています。